

中西健夫（なかにし・たけお）先生



株式会社ディスクガレージ 代表取締役社長
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
会長

【主要経歴】

1981年 株式会社ディスクガレージ入社
1993年 株式会社ディスクガレージ代表取締役副社長就任
1997年 株式会社ディスクガレージ代表取締役社長就任
2012年 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長就任 現在に至る

【その他兼任】

ポイントグリーン推進環境会議理事
株式会社DGエージェント代表取締役CEO
株式会社横浜フリエスポーツクラブ取締役
一般社団法人チームスマイル副代表理事

《講義概要》

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長であり、コンサートプロモーターである株式会社ディスクガレージ代表取締役社長の中西健夫氏が、エンターテインメントをとりまく環境の変化、そして未来と題して講義を行った。

講義ではまず中西氏から、自身と音楽の関わりとともに 1970 年代からの音楽の変遷が話された。1970 年代のフォークソング全盛期を経て、1980 年代中期からミュージック・ビデオの制作やライブによるプロモーションなど、新しい音楽の息吹が流れた。同時期に東京ドーム、横浜アリーナ等が相次いで完成し、大規模公演やドームツアー、アリーナツアーが可能になった。1990 年代以降、CD の売り上げが好調となるとライブも活性化した。

2000 年以降、インターネット環境の整備により音楽配信が登場した。同時にテロや天災など、人々の気持ちを大きく変える出来事が多く起こり、ミュージシャンの作る音楽へも影響を及ぼした。また、CD 売上が減少する反面、音楽フェスが増加し、食やアート・環境問題へも広がりを見せた。

コンサートプロモーターズ協会とは、コンサートプロモーターの集まりである。音楽ソフトの売上は減少傾向にあるが、コンサート市場は公演数・動員・売上ともに増加しており、人々に支持される音楽フェスも増えている。音楽による活性化の一つとして、2014 年 9 月に行われたサマーピクニックを挙げた。50 代以上をターゲットとしたこの音楽フェスは、今後のコンサート市場の中で、若者だけではなく各世代に向けた音楽の発信方法についてのモデルケースとなった。

また、2020 年東京パラリンピックの開催は、現在バリアフリーになっていない施設や東京都内において、高齢化社会のビジネスモデルを構築する契機であると述べた。オリンピック・パラリンピック開催を起爆剤に、施設再建など、東京を世界の高齢化のモデル都市として構成する必要がある。

これからのライブ・エンターテインメント市場は、日本の音楽をどう海外に向けて発信するかが重要となってくる。東京オリンピックを起爆剤として、アーティストの海外進出だけでなく、夏フェスなど日本国内の音楽に対する海外からの集客も重要となる。インターネット時代だからこそ、良い音楽を作り届ける。ライブというリアルを大切にしたいと述べ、講義を終えた。

受講生からは、音楽フェスの拡大に伴うライブ会場の充実や 2020 年東京オリンピック・パラリンピックに向けた音楽の関わりについて、今後の動向に注目する声が挙がった。

